



Title	The formation of immune complexes is involved in the acute phase of periodontal destruction in rats
Author(s)	蔵本, 明子
Citation	( 2012-02-01 )
Issue Date	2012-02-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/28720">http://hdl.handle.net/10069/28720</a>
Right	

This document is downloaded at: 2019-06-19T23:40:14Z

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 475 号	氏名	藏本 明子
学位審査委員		主 査	中山 浩次
		副 査	池田 通
		副 査	林 善彦
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 本研究は、ラットを用いて歯周組織での免疫複合体形成の歯周組織破壊への影響を病理組織学的に検討したものであり、研究目的として妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価 歯周組織破壊に免疫複合体形成が関与するか否かを病理組織学的に検討するため、免疫感作ラットより抗 <i>E. coli</i> リポ多糖 (LPS) 抗体および抗オボアルブミン (OVA) 抗体を精製し、ラット上顎両側第一臼歯口蓋側歯肉溝にこれらの抗体とそれぞれの抗原である LPS と OVA を共に滴下した。コントロールとして、LPS と OVA の単独投与を行った。屠殺後、病理組織学的検討のために H.E. 染色、TRAP 染色および C1qB 特異的免疫組織化学的染色を行った。 以上の実験により免疫複合体形成が歯周組織破壊に重要であることが示唆され、研究手法は妥当であった。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価 組織学的検討の結果、コントロール群ではアタッチメントロス認めなかったが、抗原とその特異抗体との共投与群では明らかなアタッチメントロスが生じており、とくに LPS と抗 LPS 抗体の共投与群で顕著であった。好中球浸潤、破骨細胞の存在および C1qB の局在についての結果も免疫複合体形成が歯周組織破壊に関与することを示唆した。これらの研究結果と考察内容は高く評価でき、今後の研究の展開が期待できる。</p>			
<p>以上のように、本論文は歯周炎の発症および進行のメカニズム解明に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士(歯学)の学位に値すると判断した。</p>			